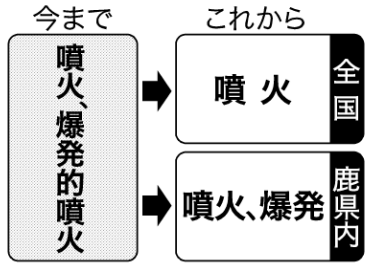


●気象庁火山用語の変更点●



気象庁 火山用語集作成し統一

「爆発的噴火」を「噴火」に

気象庁は28日、噴火警戒レベルの引き上げや噴火発生を知らせる防災情報で使う火山関連の用語集を作成し、ホームページで公開した。「爆発的噴火」は、火山学の本来の意味と異なる表現だったため今後使わ

県内は「爆発」「噴火」使い分け

ず、「噴火」に統一した。ただし、桜島など鹿児島県内の5常時観測火山は用語が定着しているため、「爆発」と「噴火」を使い分ける。近年、全国で火山災害が発生し、火山情報の重要性

が増しており、住民や登山客へ明確に分かりやすく伝わるようにするのが狙い。専門家らの意見を踏まえ、火山観測や火山現象など5項目で計146語を選んだ。

「噴火」を区別していた。しかし、火山学的に爆発的噴火は火山灰などの固体物質を放出する噴火全般を指す。国内で起きる噴火の大半がこれに当たるため、今回、「噴火」に統一した。一方、鹿児島では、噴石や空振、爆発音を伴う噴火様式を「爆発」と呼ぶことが定着しているため、今後も使用する。

【問1】「爆発的噴火」という言葉を使わない理由は何でしょう。

【問2】「爆発」と「噴火」を使い分けるのはなぜでしょう。

【問3】火山情報の重要性が増しているのはなぜでしょう。

【問4】火山学的には「爆発的噴火」はどのようなものをさすのでしょうか。

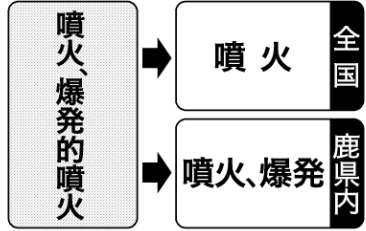
【調べてみよう】身近な活火山について調べてみよう。

*習っていない漢字のよみがなや難しい用字用語の解説

噴火警戒(ふん・か・けい・かい)レベル=火山活動の状況(じょう・きょう)に応じて「警戒が必要な範囲(はん・い)」と防災機関や住民らの「とるべき防災対応」を5段階に区分して発表するめやす 爆発(ばく・はつ) 狙(ねらい) 踏(ふ)まえ 項目(こう・もく) 噴石(ふん・せき)=火山が爆発する時に火口から噴(ふ)き出す火山弾や岩石をまとめた呼び名 空振(くう・しん)=爆発や噴火などで起こる大気の振動 全般(ぜん・ぱん)=ある事からの全体 伴(ともな)う 変更(へん・こう)



●気象庁火山用語の変更点●
今まで



気象庁 火山用語集作成し統一

「爆発的噴火」を「噴火」に

気象庁は28日、噴火警戒レベルの引き上げや噴火発生を知らせる防災情報で使う火山関連の用語集を作成し、ホームページで公開した。「爆発的噴火」は、火山学の本来の意味と異なる表現だったため今後使わ

県内は「爆発」「噴火」使い分け

ず、「噴火」に統一した。ただし、桜島など鹿児島県内の5常時観測火山は用語が定着しているため、「爆発」と「噴火」を使い分ける。近年、全国で火山災害が発生し、火山情報の重要性

が増しており、住民や登山客へ明確に分かりやすく伝えるようにするのが狙い。専門家らの意見を踏まえ、火山観測や火山現象など5項目で計146語を選んだ。

「噴火」に統一した。一方、鹿児島では、噴石や空振、爆発音を伴う噴火様式を「爆発」と呼ぶことが定着しているため、今後も使用する。

【問1】「爆発的噴火」という言葉を使わない理由は何でしょう。

火山学の本来の意味と異なる表現だったため

【問2】「爆発」と「噴火」を使い分けるのはなぜでしょう。

桜島など鹿児島県内の5常時観測火山は用語が定着しているため

【問3】火山情報の重要性が増しているのはなぜでしょう。

近年、全国で火山災害が発生しているため

【問4】火山学的には「爆発的噴火」はどのようなものをさすのでしょうか。

火山灰などの固体物質を放出する噴火全体のこと

【調べてみよう】身近な活火山について調べてみよう。

*習っていない漢字のよみがなや難しい用字用語の解説

噴火警戒(ふん・か・けい・かい)レベル=火山活動の状況(じょう・きょう)に応じて「警戒が必要な範囲(はん・い)」と防災機関や住民らの「とるべき防災対応」を5段階に区分して発表するめやす 爆発(ばく・はつ) 狙(ねらい) 踏(ふ)まえ 項目(こう・もく) 噴石(ふん・せき)=火山が爆発する時に火口から噴(ふ)き出す火山弾や岩石をまとめた呼び名 空振(くう・しん)=爆発や噴火などで起こる大気の振動 全般(ぜん・ぱん)=ある事からの全体 伴(ともな)う 変更(へん・こう)

